

2025 年卒
Vol. 04

2月1日時点の就職意識調査

キャリタス就活 学生モニター2025 調査結果 (2024年2月発行)

いよいよ来月に採用広報解禁を控えた 2025 年卒就職戦線。学生の最新動向を知るべく、キャリタス就活・学生モニターを対象に、2月1日時点での準備状況などを尋ねた。採用広報解禁前にもかかわらず内定率が3割に上るなど、早期化の傾向が顕著に表れている。

1. 就活解禁1カ月前の不安

- 「希望する企業から内定をもらえるか」が最多 (76.0%)
- 選考への不安は、「面接」(59.6%)、「エントリーシート」(39.6%)、「筆記試験」(35.7%)の順

2. インターンシップ等^(※)の参加状況

- 「5日間以上」の参加経験者が前年より大きく増加 (28.5%→38.8%)
- 平均参加社数 11.5 社のうち、就職したいと思った企業は 3.6 社。参加企業の3割

3. 2月の行動予定

- 「本選考を受ける」が前年よりさらに増加 (63.2%→65.7%)
- 「自己分析や選考対策をする」(53.9%)、「インターンシップ等に参加」(50.5%)が過半数

4. 就職先候補として判断するために知りたい情報

- 「福利厚生」「仕事内容」が6割強で多い。「勤務地」「社風」など知りたい情報は多岐にわたる

5. 2月1日時点の本選考受験状況と内定状況^(※)

- 「本選考を受けた」71.3%。前年同期を3.1ポイント上回る。受験社数は平均4.5社
- 「内定を得た」33.8%で、前年同期(23.8%)を10ポイント上回る

6. 志望企業の選考スケジュールの認知状況

- 7割(70.3%)が本命企業のスケジュールを認識
- 本命企業からの内定取得予想時期は「3月後半」が最多(20.6%)。「6月前半」は10.1%

7. Uターン就職の希望状況

- Uターン就職希望者は29.8%。「出身地・地元が好き/暮らしやすい」が理由のトップ

8. 働き方についての考え

- 「1つの分野で専門性を高めたい」43.2%⇔「幅広い業務を経験したい」56.8%
- 「多少忙しくても早く出世したい」41.6%⇔「出世より自分のペースで仕事したい」58.3%

※「インターンシップ」に限定せず、1日以内のプログラム等も含めて尋ねた

※「内定」には、内々定を含む

調査概要

調査対象：2025年3月に卒業予定の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）
回答者数：1,164人（文系男子278人、文系女子432人、理系男子277人、理系女子177人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2024年2月1日～7日
サンプリング：キャリタス就活 学生モニター2025

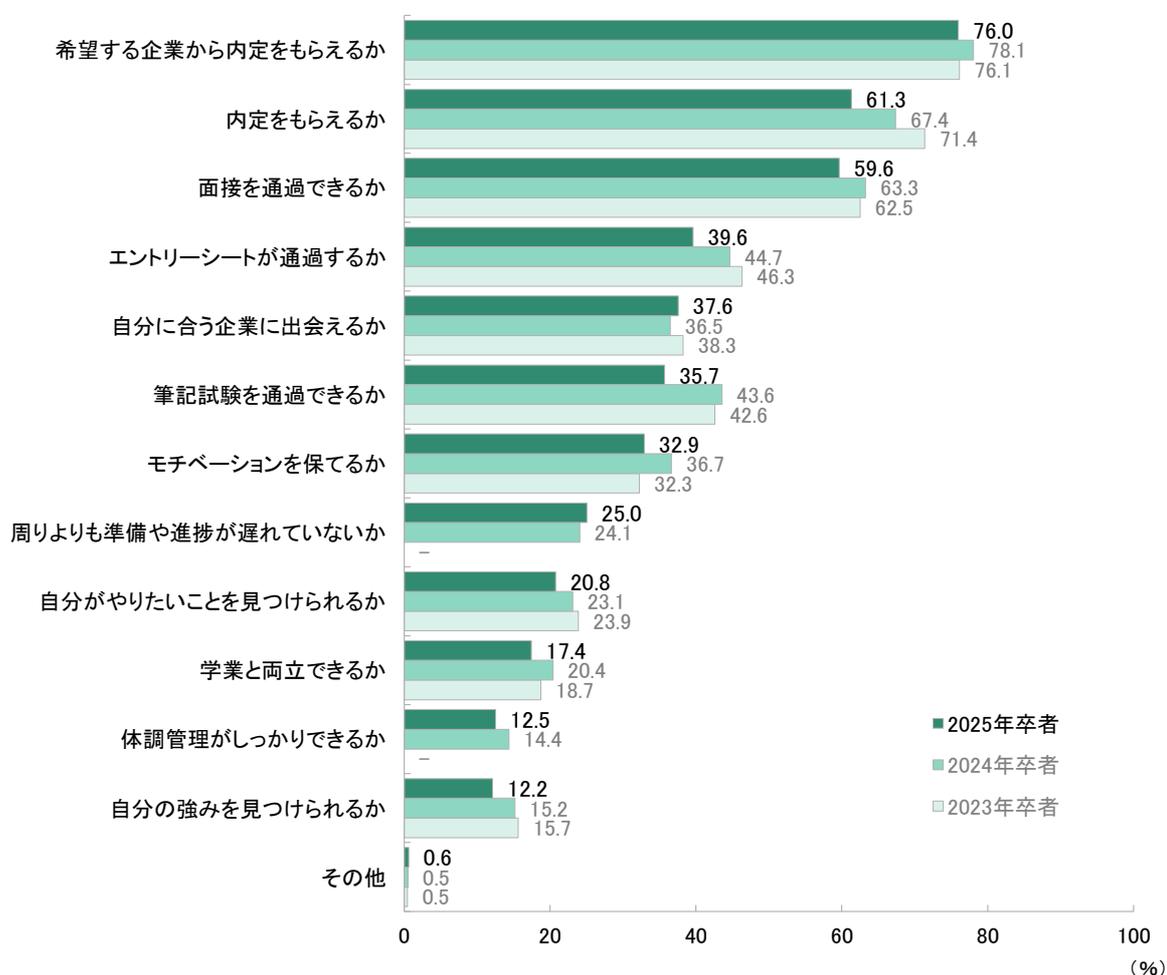
1. 就活解禁1カ月前の不安

3月の就職活動解禁を目前にどのような不安を感じているかを尋ね、過去2年の結果と比較した。

最も多かったのは「希望する企業から内定をもらえるか」で、今年も7割強が選んだ(76.0%)。次いで「内定をもらえるか」が続き、内定獲得への不安が上位に並ぶ。ただし、「内定をもらえるか」は、この2年で約10ポイント低下(71.4%→67.4%→61.3%)。2月時点で内定を得ている学生が増え(詳細は後述)、内定獲得自体への不安よりも、希望する会社の内定が取れるかどうかを不安に思う様子が見て取れる。

次に選考試験への不安が続く。「面接」は、今年も約6割が選んだ(59.6%)。「エントリーシート」「筆記試験」への不安は3割台(39.6%、35.7%)。選考試験についても前年調査よりポイントが減少しており、同様に内定率の上昇が影響しているとみられる。

<就活解禁1カ月前に感じている不安>



■就職活動への不安

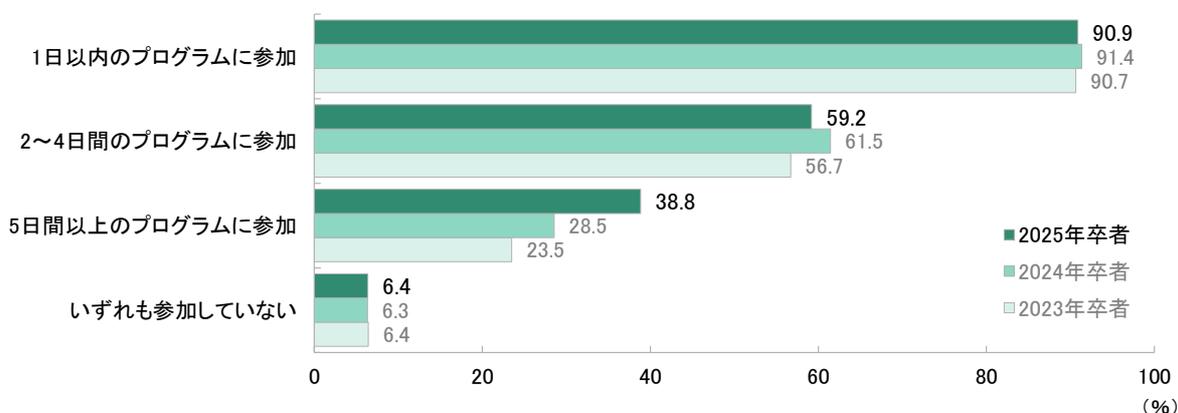
- いよいよ本選考が近づいてきて、第一志望の企業から内定をもらえるかが最近の悩みだ。 <文系女子>
- とにかく面接が不安。早期選考の案内は何社かいただいているが、書類選考を突破したとしても面接で上手く話せず落とされるのではないかと、という不安が常にある。 <文系男子>
- 不安。周りが内定もらい出して、自分が置いていかれている感じがする。 <理系女子>
- 内定が得られるかが一番不安である。またエントリーする企業を増やしていく必要があるため、2月は企業との出会いを重視したい。 <文系女子>

2. インターンシップ等の参加状況

2月1日時点のインターンシップや仕事研究プログラムの参加状況を、プログラム日数ごとに見てみる。「1日以内のプログラム」への参加経験を持つ学生は9割超で(90.9%)、「2~4日間」が約6割(59.2%)。ともに前年調査と大きな変化は見られない。一方で、「5日間以上のプログラム」は前年より10ポイント以上上昇し、4割近くまで増えた(28.5%→38.8%)。インターンシップの定義変更もあり、実施企業や受け入れ枠が増えた様子がうかがえる。

参加社数についても、「5日間以上のプログラム」はここ3カ年で伸びが見られる(平均1.4社→1.5社→1.7社)。ただ、依然として単日開催が中心であることから、参加社数も「1日以内のプログラム」が圧倒的に多い(平均9.2社)。

<プログラム日数別参加経験率>



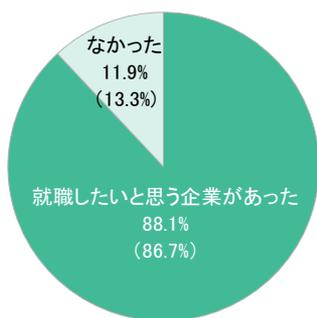
<プログラム日数別参加社数/平均>

	(社)						
	全体	(2024年卒者)	(2023年卒者)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1日以内のプログラム	9.2	8.7	9.2	10.6	11.2	5.7	7.6
2~4日間のプログラム	2.9	3.0	3.4	3.5	2.8	2.6	2.4
5日間以上のプログラム	1.7	1.5	1.4	1.6	1.5	1.9	1.7

※それぞれの参加者が分母

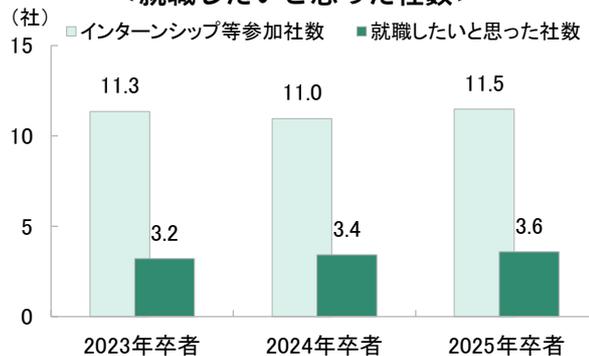
プログラム日数を問わず、参加した結果、就職したいと思う企業があったかどうか尋ねたところ、9割近くが「あった」と回答(88.1%)。平均参加社数11.5社のうち、就職したいと思った企業は3.6社で、参加企業の3割に相当する(31.3%)。この割合は年々少しずつ上昇しており、インターンシップ等に参加した企業の中から、自分に合う企業を選ぼうとしている様子を感じられる。

<インターンシップ等参加企業への就職意向>



※()内は前年同期調査の数値

<就職したいと思った社数>



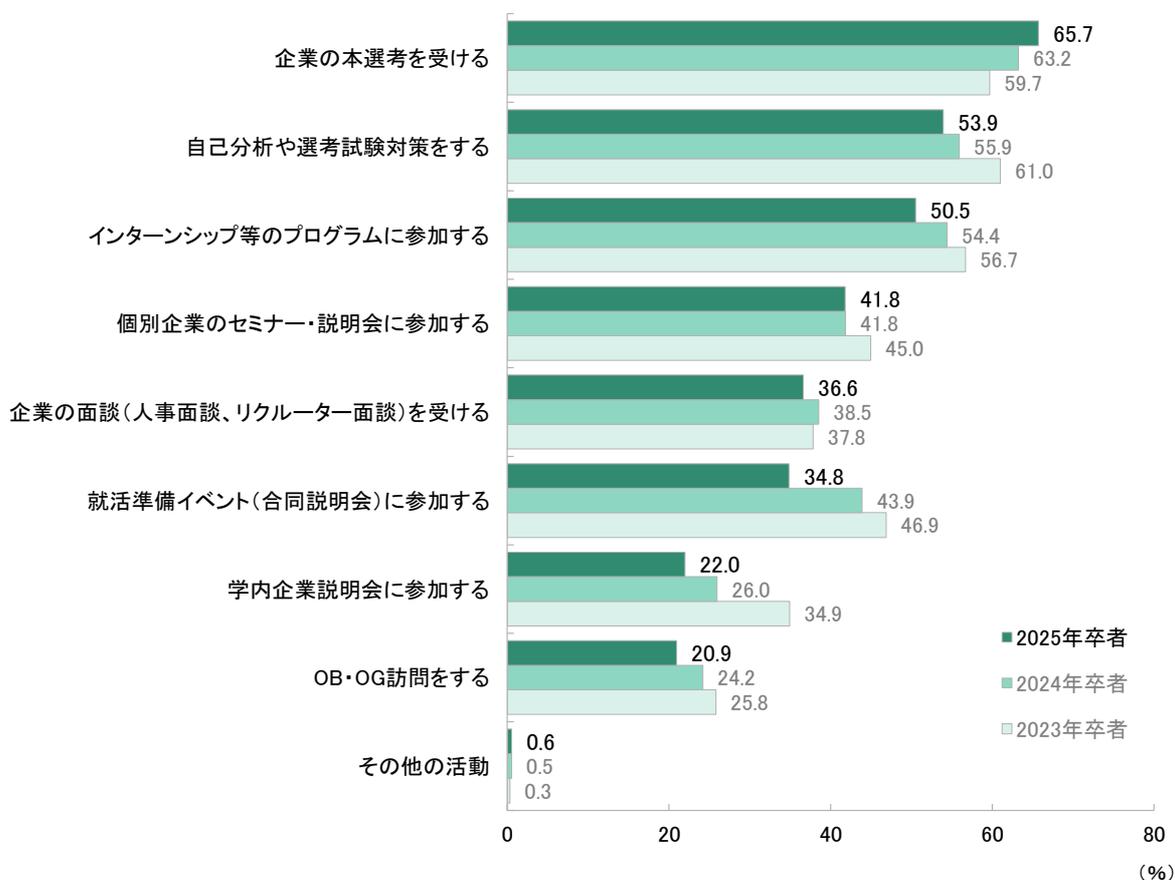
※「参加社数」は日数にかかわらず参加経験者を分母に計算

3. 2月の行動予定

3月1日の就職活動解禁までの1カ月間をどのように過ごす予定なのかを尋ねた。

最も多いのは今年も「企業の本選考を受ける」で、前年よりさらに増加した(63.2%→65.7%)。続く「自己分析や選考試験対策をする」(53.9%)、「インターンシップ等のプログラムに参加する」(50.5%)までが過半数。本選考を受けつつも、就職活動が本格化する前に選考対策を進めておきたいと考える学生が多いことがわかる。また、3月の解禁直前まで、インターンシップ等のプログラムへの参加を通して、就職先の候補となるような新たな企業との出会いを模索したり、業界や企業への理解を深めたりしたいという学生も少ないようだ。

<2月の行動予定>



■2月の行動や心境など

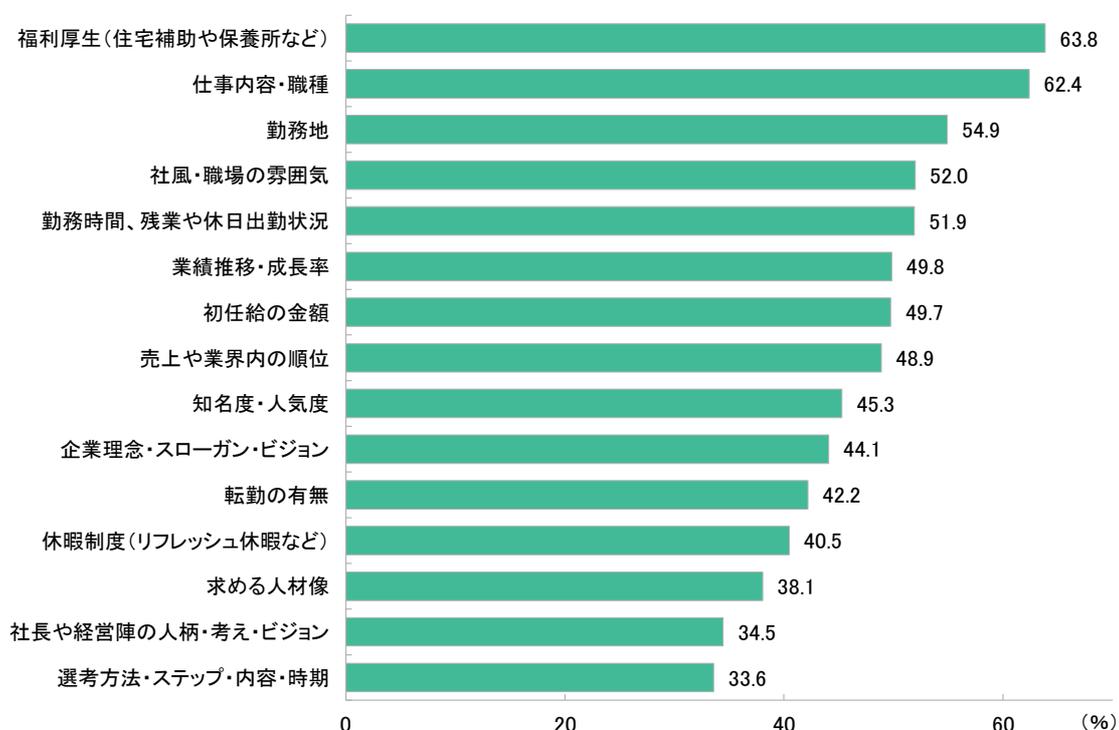
- あっという間に時間が過ぎ、就職活動の山場が見えてきてしまった感覚です。早く動き始めたつもりでしたが、もっと必死になって自己分析や選考対策を行っておけばよかったと今の時点で後悔しています。フォーカスすべきはこれからの行動なので、納得就活を目指して取り組んでいきたい。 <文系男子>
- 社会人マナーや話し方、ESの書き方などを特訓したい。 <文系女子>
- 企業の方々に「よく調べてるな」と感心してもらえるレベルまで企業理解を深めたい。 <理系男子>
- 第一志望ではない会社の面接は慣れてきて、気楽に受けているが、第一志望のために何を準備しておくべきか悩み中。 <理系女子>
- 早期選考が始まったり、内定をもらって就職活動を終えたという声を聞いたりしているため、なんとなく落ち着かない状態が続いている。自分が入りたい企業から内定をいただくために、今できることを行っていきたい。 <文系女子>

4. 就職先候補として判断するために知りたい情報

就職先の候補として興味が持てるかどうかを判断するために、企業のどんな情報を知りたいと思っているのかを尋ねた。あてはまるものをすべて選んでもらったところ、最も多かったのは「福利厚生」で、6割強が選んだ(63.8%)。僅差で「仕事内容・職種」(62.4%)が続き、「勤務地」(54.9%)、「社風・職場の雰囲気」(52.0%)、「勤務時間、残業や休日出勤状況」(51.9%)までが半数を超える。企業には様々な情報発信が求められそうだ。

これを文理男女別に見ると、女子は全体的に数値が高く、多くの項目を選択。様々な角度から企業を判断しようと考えていることが読み取れる。ただし、「知名度・人気度」については男子の方が高い。また、文系は「企業理念・スローガン・ビジョン」が理系に比べ高いなど、属性により特徴が見られる。

<就職先の候補として興味が持てるかを判断するために知りたい情報>



※全31項目のうち、上位15位まで

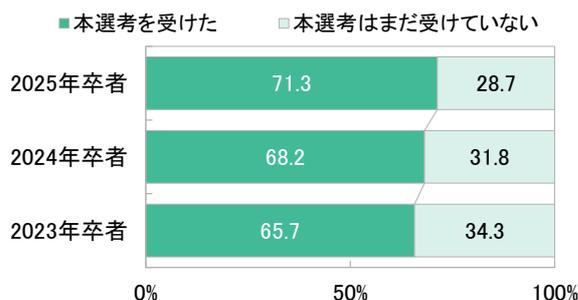
(%)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
福利厚生(住宅補助や保養所など)	63.8	53.6	71.5	58.8	68.9
仕事内容・職種	62.4	55.4	68.3	54.9	70.6
勤務地	54.9	45.0	64.4	43.7	65.0
社風・職場の雰囲気	52.0	45.7	57.9	40.8	65.0
勤務時間、残業や休日出勤状況	51.9	47.5	59.0	38.3	62.7
業績推移・成長率	49.8	49.3	48.8	50.9	51.4
初任給の金額	49.7	42.4	55.6	43.0	57.6
売上や業界内の順位	48.9	50.7	45.6	52.7	48.0
知名度・人気度	45.3	49.3	41.7	51.3	38.4
企業理念・スローガン・ビジョン	44.1	44.6	51.2	28.9	49.7
転勤の有無	42.2	34.5	53.5	29.6	46.3
休暇制度(リフレッシュ休暇など)	40.5	37.4	44.7	31.8	48.6
求める人材像	38.1	33.8	45.4	27.4	43.5
社長や経営陣の人柄・考え・ビジョン	34.5	31.3	42.4	22.4	39.0
選考方法・ステップ・内容・時期	33.6	35.3	36.3	24.2	39.0

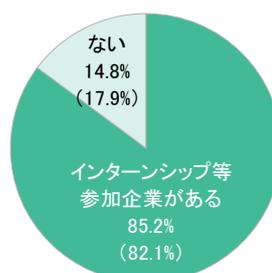
5. 2月1日時点の本選考受験状況と内定状況

2月1日時点の本選考（採用選考）の受験状況を尋ねた。ES提出や、筆記試験、面接など「本選考を受けた」という回答が7割を超え（71.3%）、前年同期調査（68.2%）を3.1ポイント上回った。本選考受験経験者を分母とした受験社数の平均は4.5社で、前年（3.5社）より1社多い。また、本選考受験者の8割以上（85.2%）が、受験企業の中にインターンシップ等に参加した企業があると答えた。

<2月1日現在の本選考の受験有無>



<うち、インターンシップ等参加企業の有無>



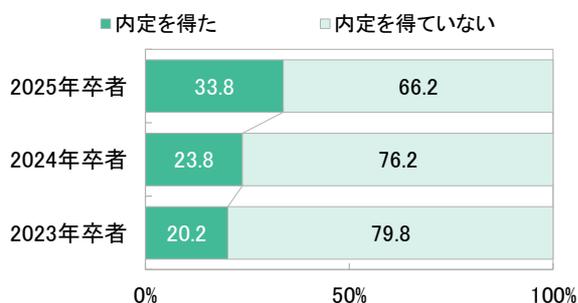
※()内は前年同期調査の数値

	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
本選考を受けた	71.3%	68.2%	70.9%	69.4%	71.1%	76.8%
選考受験社数(平均)	4.5社	3.5社	5.5社	4.5社	3.8社	4.1社
うち、インターンシップ等参加社数(平均)	2.5社	2.0社	2.9社	2.5社	2.1社	2.3社

内定状況については、「内定を得た」との回答が全体の33.8%。前年調査（23.8%）を10ポイント上回り、先月調査に引き続き早期化の傾向が顕著に表れている。前年は内定率が3割を超えたのは3月調査であり（3月1日時点、32.4%）、約1カ月前倒しで進んでいる計算になる。ただ、内定を得ても大半が就職活動を継続しており、調査時点で就活を終了した学生は全体の5.7%。

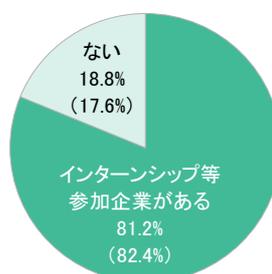
属性別に見ると、本選考受験率・内定率とも文系より理系で高く、先行している様子が表れている。特に理系男子は4割が内定を手に入れている（40.8%）。

<2月1日現在の内定の有無>



*「内定」には、内々定を含む

<うち、インターンシップ等参加企業の有無>



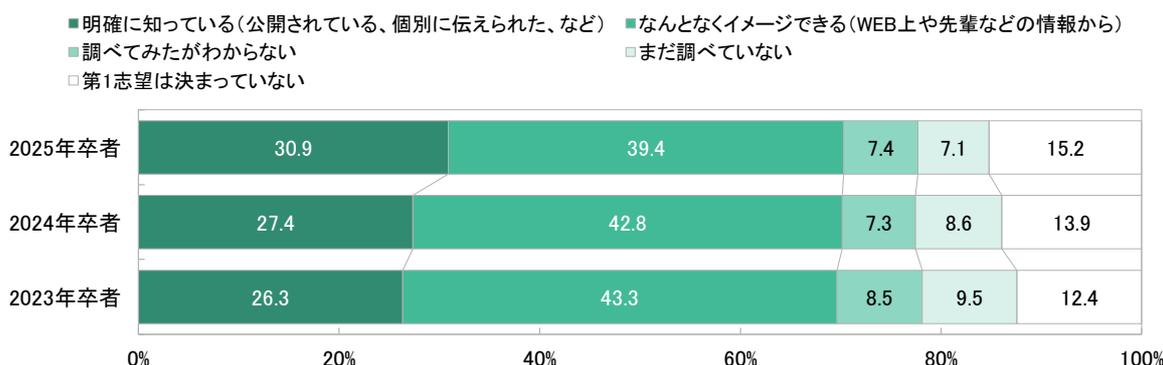
※()内は前年同期調査の数値

	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定を得た	33.8%	23.8%	36.7%	25.9%	40.8%	37.9%
内定社数(平均)	1.6社	1.5社	1.7社	1.4社	1.6社	1.6社
うち、インターンシップ等参加社数(平均)	1.2社	1.1社	1.1社	1.1社	1.2社	1.3社

6. 志望企業の選考スケジュールの認知状況

現時点の第1志望企業について、選考スケジュールを知っているか尋ねたところ、「明確に知っている」という学生は約3割(30.9%)。「なんとなくイメージできる」(39.4%)を合わせると、約7割(計70.3%)が認識していた。その企業から内定が出る場合に、いつ頃をイメージしているかを重ねて尋ねると、「3月後半」(20.6%)が最も多かった。「3月後半」が年々上昇する一方、選考解禁時期の「6月前半」は減少傾向が顕著。なお、3月後半までを合計すると44.1%に上り、志望企業の内定を順調に得られれば、早期に就職活動を終える学生が昨年より増えることも考えられる。

＜第1志望企業の選考スケジュールの認知状況＞

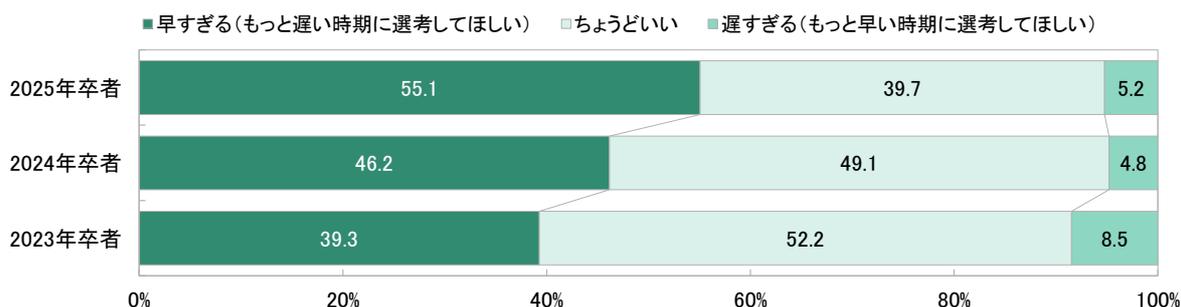


＜第1志望企業の内定取得予想時期＞



志望企業に限らず、今の企業の動き(選考時期)についての考えを尋ねた。「早すぎる(もっと遅い時期に選考してほしい)」という回答が、前年調査(46.2%)よりもさらに上昇し、過半数に上った(55.1%)。想像以上に早期化が進み、準備が追いつかないまま選考に臨まざるを得ないという意見のほか、学校の試験期間に早期選考が多いことで学業に支障が出ているという声も多く、企業には一層の配慮が求められる(コメントは次ページに掲載)。

＜企業の採用活動の動きをどう思うか＞



■企業の動きへの意見

【早すぎると思う理由】

- 去年とは比べものにならないくらい早期化が進んでおり、企業の選考状況を把握することが困難。自己分析などの準備も不完全なまま選考に進んでいってしまっている印象。 <文系女子>
- 本選考のエントリーシート提出などが、早い会社だと1、2月に始まり、期末レポートや試験の時期とかぶる。 <文系男子>
- 修士1年から就職活動に時間を取られて、大学院生の本分である研究に集中できない。 <理系男子>
- あまり研究が進んでいない状態で研究の結果を求められると困る。 <理系女子>

【ちょうどよいと思う理由】

- 就活を始めて約半年たち、ちょうど自己分析やES、面接練習ができてきたため。 <理系女子>
- 選考が集中しているより、バラバラな方が時間もとれていいと思います。 <文系女子>
- 大学3年の春休みと重なり、ちょうど授業がない期間なので、説明会の予約などがしやすい。 <文系男子>

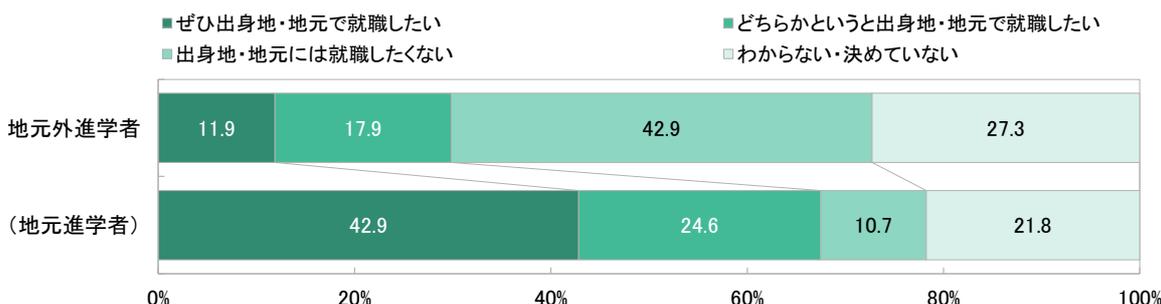
【遅すぎると思う理由】

- 早く就活を終わらせ、研究に専念したいから。 <理系男子>
- 志望している業界の選考が遅く、周りが内定もらっていると焦る。 <文系女子>

7. Uターン就職の希望状況

出身地・地元を離れて進学している学生(=地元外進学者、モニター全体の36.9%)に、Uターン就職を希望しているか否かを尋ねた。「ぜひ出身地・地元で就職したい」(11.9%)と「どちらかというと出身地・地元で就職したい」(17.9%)を合わせたUターン就職希望者は約3割(計29.8%)。出身地・地元には就職したくない学生(42.9%)を大きく下回った。比較のために地元の大学に進学した学生にも尋ねたが、6割強(計67.5%)が地元での就職を希望しているのとは対照的だ。

<地元就職希望状況>



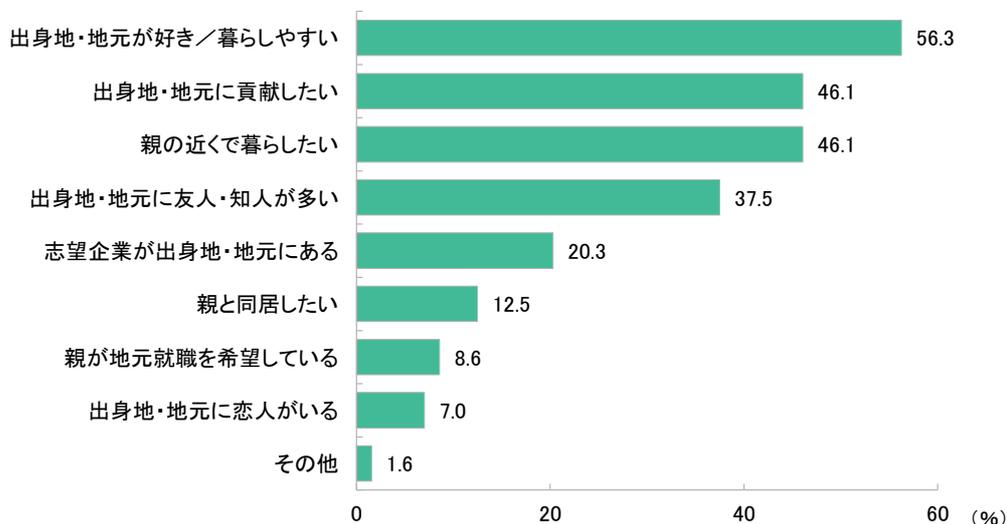
出身地別に見ると、Uターン希望者が多いのは、「関西出身」が4割強(計43.2%)で、「関東出身」(計30.2%)と「中部出身」(計28.5%)が3割前後。大都市圏で比較的高い。

<地元外進学者のUターン就職希望状況(出身地別)>

	全体	北海道出身	東北出身	関東出身	中部出身	関西出身	中国・四国出身	九州・沖縄出身
ぜひ出身地・地元で就職したい	11.9	5.3	10.5	14.6	11.2	14.8	13.0	4.7
どちらかというと出身地・地元で就職したい	17.9	10.5	10.5	15.6	17.3	28.4	13.0	20.9
出身地・地元には就職したくない	42.9	47.4	50.0	37.5	50.0	25.9	48.1	55.8
わからない・決めていない	27.3	36.8	28.9	32.3	21.4	30.9	25.9	18.6

Uターン就職をしたい理由で最も多いのは、「出身地・地元が好き／暮らしやすい」で、5割強が選んだ(56.3%)。次いで「出身地・地元に貢献したい」「親の近くで暮らしたい」が同率で続く(46.1%)。地元への愛着や実家に近い場所での生活を希望することから、就職を機に地元に戻りたいと考える学生が多いようだ。

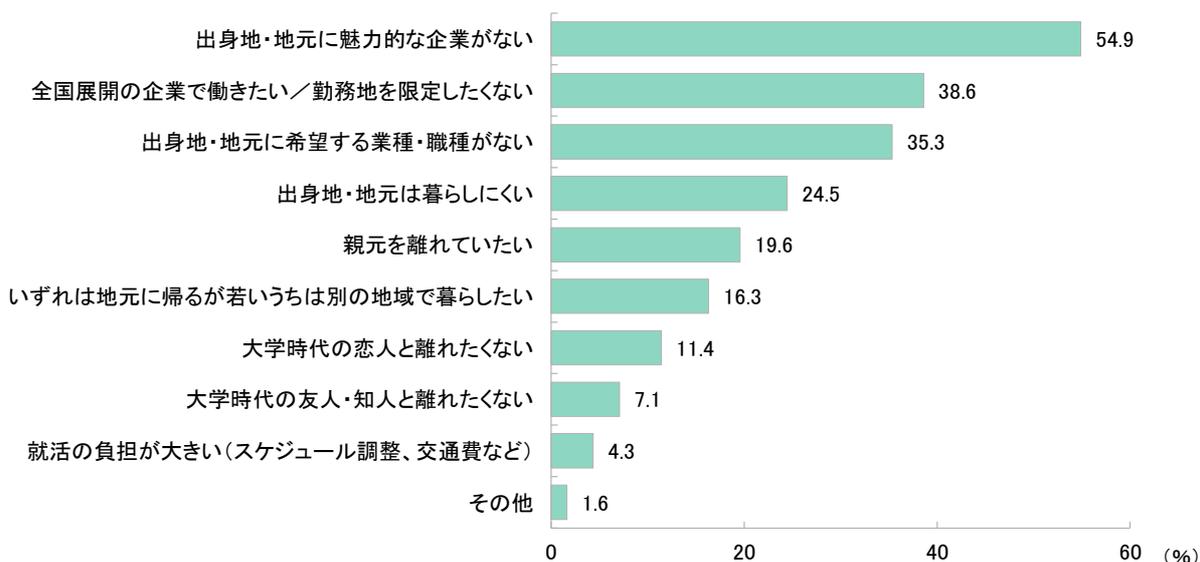
<Uターン就職をしたい理由>



※出身地・地元を離れて進学した者が回答

一方、Uターン就職をしたくないと回答した学生にその理由を尋ねると、「出身地・地元魅力的な企業がない」が半数を超え最も多かった(54.9%)。「出身地・地元希望する業種・職種がない」も比較的多い(35.3%)。地元に戻りたい気持ちがある場合でも、地元で就職したいと思える企業や仕事が見つからないことで、Uターン就職に二の足を踏んでしまう学生も一定数いると見られる。企業側からのより一層の情報発信、魅力の訴求が求められていると言えそうだ。

<Uターン就職をしたくない理由>



※出身地・地元を離れて進学した者が回答

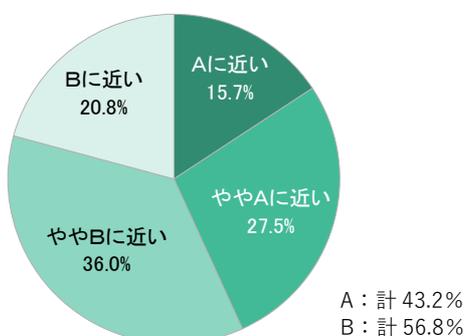
8. 働き方についての考え

働き方に関する4つの指標について対照的な項目を示し、現時点での希望に近い方を選んでもらった。まず、「1つの分野で専門性を高めたい」と考える学生は合わせて43.2%。「幅広い業務を経験したい」という学生の方がやや多い(計56.8%)。文理男女別では、理系で「1つの分野で専門性を高めたい」が高い。また、「キャリアパスは自分で主導権をもちたい」は8割近くで(計78.0%)、「会社に任せたい」(計22.0%)を大きく上回る。自律的にキャリアを形成していきたい学生が多いようだ。

出世意欲については「仕事が多少忙しくても早く出世したい」が4割(計41.6%)。「出世するより自分のペースで仕事がしたい」(計58.3%)が15ポイント以上上回り、ワークライフバランスを意識する学生の方が多いようだ。転勤意向については、「転勤したい」は2割程度にとどまる(計23.8%)。

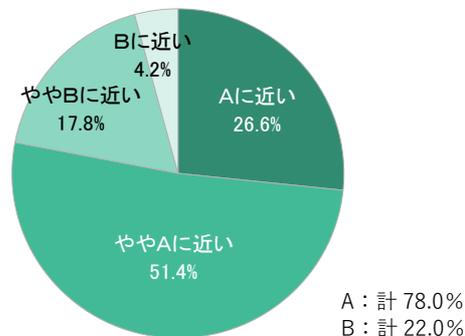
<働き方についての考え>

A: 1つの分野で専門性を高めたい
B: 幅広い業務を経験したい(ジョブローテーション)



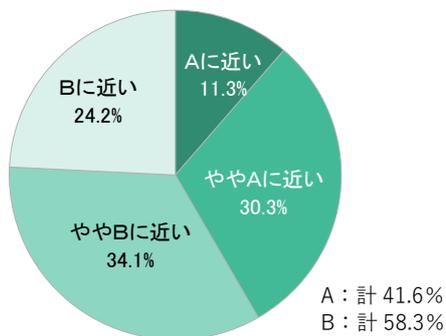
	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
Aに近い	14.0	13.0	18.8	20.3
ややAに近い	26.6	27.1	30.7	24.9
ややBに近い	36.3	38.2	31.8	36.7
Bに近い	23.0	21.8	18.8	18.1

A: キャリアパスは自分で主導権をもちたい
B: キャリアパスは会社に任せたい



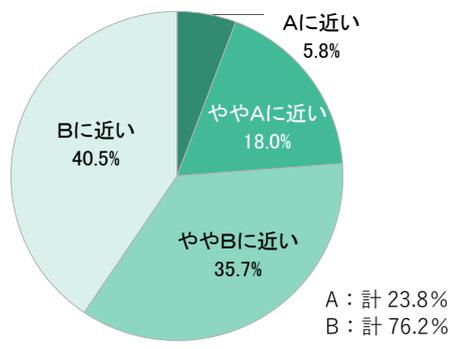
	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
Aに近い	32.4	25.9	24.2	23.2
ややAに近い	48.9	51.9	53.1	51.4
ややBに近い	14.7	18.3	18.4	20.3
Bに近い	4.0	3.9	4.3	5.1

A: 仕事が多少忙しくても早く出世したい
B: 出世するより自分のペースで仕事がしたい



	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
Aに近い	18.7	6.5	15.2	5.6
ややAに近い	36.3	21.5	39.0	28.8
ややBに近い	29.9	40.3	28.9	33.9
Bに近い	15.1	31.7	17.0	31.6

A: 転勤したい
B: 転勤したくない(1つの拠点にずっといたい)



	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
Aに近い	9.4	5.1	5.4	2.3
ややAに近い	19.4	14.1	22.4	18.6
ややBに近い	42.4	31.7	37.5	31.6
Bに近い	28.8	49.1	34.7	47.5

※構成比の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合がある